

2025年3月期 決算説明資料

朝日印刷株式会社

証券コード：3951
2025年5月30日



目次

- 1** —— 2025年3月期 決算
- 2** —— 中期経営計画「AX2024」の振り返り
- 3** —— 2026年3月期 業績予想と重点戦略
- 4** —— 企業価値の向上に向けて
- 5** —— 会社概要

目次

- 1** —— 2025年3月期 決算
- 2 —— 中期経営計画「AX2024」の振り返り
- 3 —— 2026年3月期 業績予想と重点戦略
- 4 —— 企業価値の向上に向けて
- 5 —— 会社概要

計画値は未達も、増収増益を達成

(百万円)	24年3月期	25年3月期	前期比	前期差	計画比	計画差
売上高	41,871	43,945	+ 5.0%	+ 2,073	▲0.4%	▲154
営業利益	2,030	2,076	+ 2.2%	+ 45	▲21.7%	▲573
経常利益	2,323	2,165	▲6.8%	▲158	▲19.8%	▲534
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,627	1,704	+ 4.8%	+ 77	▲5.3%	▲95
1株当たり 当期純利益 (円)	75.33	80.23	+ 6.5%	+ 4.9	-	-

増収・増益要因

包装システム販売事業の好調とKinta社の寄与により**前年比+5.0%の増収**となった

増収・増益要因

主力の印刷包材事業について、マレーシアでの堅調な受注状況など**国外事業が業績に大きく寄与**した

経常利益▲要因

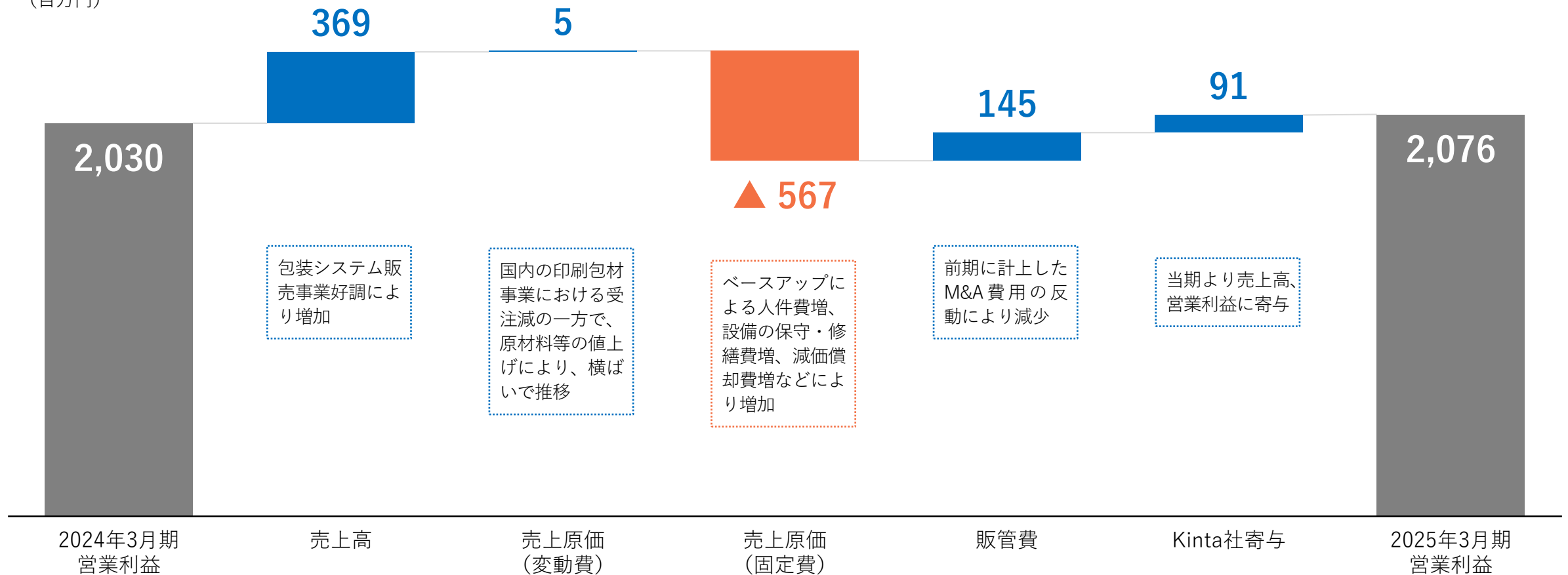
支払利息の増加及び賃貸物件の補修による賃貸収入原価の増加により**経常利益は前年比▲6.8%**となった

計画比▲要因

想定を上回る、インバウンド需要の減少や原材料高などの影響により**当初計画値は未達**となった

売上原価が増加するも、売上高の増加と販管費の減少により吸収

(百万円)



売上高、セグメント利益ともに堅調に推移

(百万円)	24年3月期	25年3月期	前期比	前期差
売上高	38,744	40,260	+ 3.9%	+ 1,515
セグメント利益	8,950	9,256	+ 3.4%	+ 305

国内

- 医薬品向け製品において、**医療用添付文書の電子化**や、訪日外国人旅行者の消費行動の変化を背景とした**一般用医薬品のインバウンド需要減少**の影響を受けた
- 化粧品向け製品においても同様に**インバウンド需要減少**の影響並びに中国をはじめとした**輸出向け製品減少**の影響を受けた
- 前連結会計年度に実施した価格改定の効果が通年寄与したものの、その後も継続する**原材料をはじめとした製造原価の上昇**により減収減益となった

国外

- マレーシアにおいて**堅調な受注状況**となっている
- **Kinta社の連結子会社化**が寄与し、増収増益となった

前期比20%超の大幅な成長を達成

(百万円)	24年3月期	25年3月期	前期比	前期差
売上高	2,615	3,155	+ 20.7%	+ 540
セグメント利益	408	506	+ 24.0%	+ 98

- 省人化・省力化ニーズの高まりが業績に寄与
- エンジニアリング機能の強化による受注規模の拡大により、増収増益を達成



印刷包材事業に次ぐ第2の事業としてより一層の成長を見込む

売上高、セグメント利益ともに堅調に推移

(百万円)	24年3月期	25年3月期	前期比	前期差
売上高	511	529	+ 3.4%	+ 17
セグメント利益	121	130	+ 7.2%	+ 8

- 派遣稼働人数が前年に比べて増加
- 派遣単価の改定も寄与し、増収増益を達成



当社グループの強化や地元企業への貢献を目指す

当期純利益の計上により資産・純資産が増加し、自己資本比率も向上

(百万円)

■ 資産	24年3月期	25年3月期	前期末比
流動資産	28,969	29,578	+608
現預金	8,944	10,271	+1,327
売上債権	15,856	14,905	▲951
棚卸資産	3,433	3,520	+87
固定資産	39,728	40,884	+1,155
有形固定資産	30,508	32,447	+1,938
無形固定資産	2,370	2,420	+50
投資その他資産	6,850	6,017	▲832
資産合計	68,698	70,462	+1,764

■ 負債	24年3月期	25年3月期	前期末比
流動負債	15,538	14,419	▲1,119
仕入債務	8,298	7,062	▲1,236
短期有利子負債	3,730	3,915	+185
固定負債	18,988	20,471	+1,483
長期有利子負債	16,328	17,619	+1,291
負債合計	34,526	34,890	+364

■ 純資産			
純資産合計	34,171	35,572	+1,400
自己資本比率	48.1%	48.6%	+0.5pt

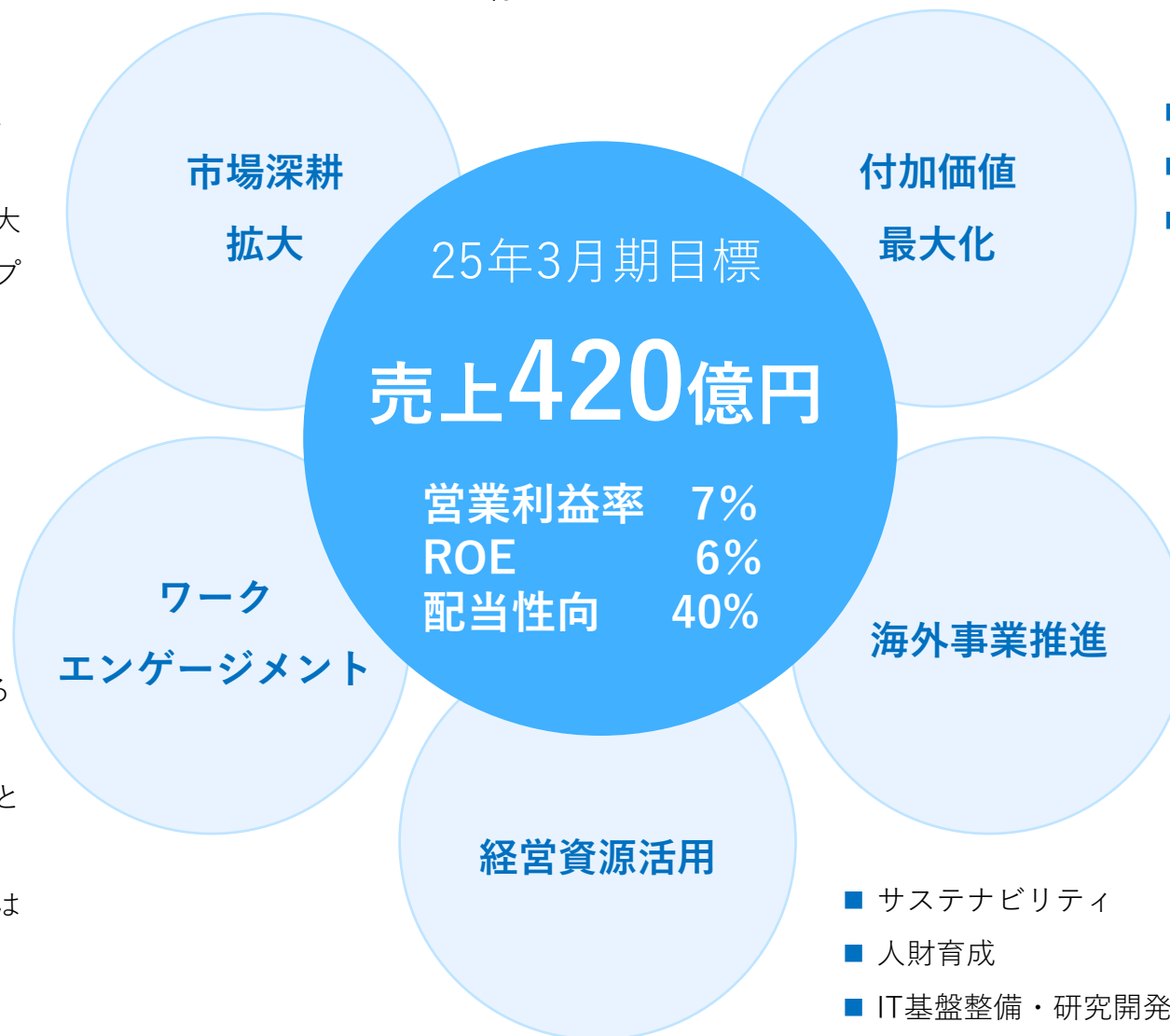
目次

- 1 — 2025年3月期 決算
- 2 — 中期経営計画「AX2024」の振り返り
- 3 — 2026年3月期 業績予想と重点戦略
- 4 — 企業価値の向上に向けて
- 5 — 会社概要

■ 目標 ■ 5つの戦略

- 医薬品・化粧品市場別戦略により、その市場でシェアNo.1を確立
- 市場別成長戦略に沿ったシェア拡大
- 朝日オリジナル製品販売のためのプレゼン専門組織

- 200年企業・子や孫が入りたくなる会社（事業の将来性を感じる）
- 仕事の意義・貢献（朝日で働くことに誇りを感じる）
- 自己成長実感（やる気がある人には成長のチャンスがある）



- 得意先への絶対的価値を極める
- 企画・提案の圧倒的スピードと質
- IoT・AIを駆使した省力化・少人化によりLow Cost Operation体制を構築する

- ASEANでの事業拡大
- グローバル人材の育成
- 医薬品・化粧品のグローバルメーカーに対し確固たるシェアを確立

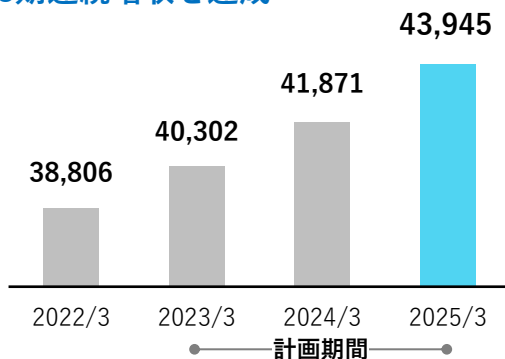
- サステナビリティ
- 人財育成
- IT基盤整備・研究開発力強化

計画最終年度の25/3期は、売上高目標を達成するも収益性に課題が残る

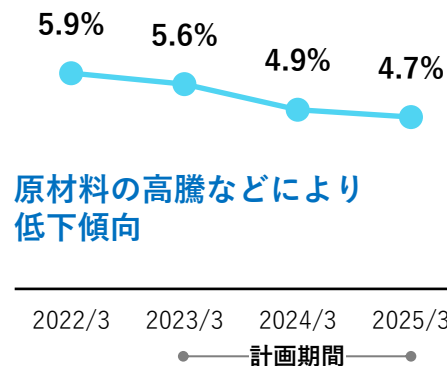
(百万円)	22年3月期 実績	25年3月期 目標	25年3月期 実績	目標比
売上高	38,806	42,000	43,945	+1,945
営業利益率	5.9%	7.0%	4.7%	▲2.3pt
ROE	5.7%	6.0%	5.1%	▲0.9pt
配当性向	43.1%	40.0%	47.4%	+7.4pt

■ 売上高 (百万円)

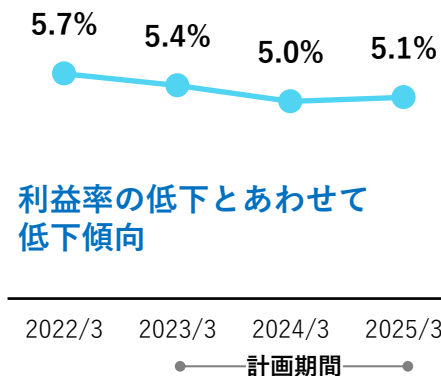
3期連続増収を達成



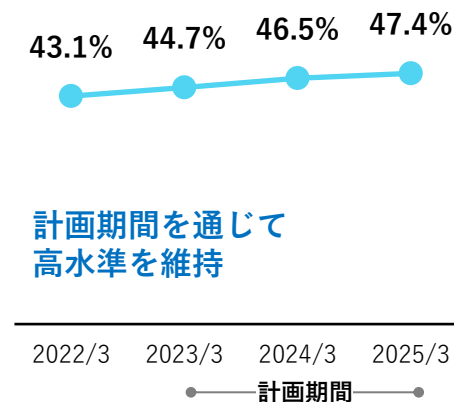
■ 営業利益率



■ ROE



■ 配当性向



各施策において、課題や取り組み余地が残されていると認識

AX2024 5つの戦略

「包むところを大切に 新たな一歩を」をスローガンに以下の5つの事業戦略を実行することで、お客様へ対して包装の揺るぎない付加価値を創出し、朝日印刷グループ全体の企業価値向上を目指す

	成果	評価	課題
市場深耕拡大	- 印刷包材事業における市場別営業戦略の実行により、売上高は堅調に推移 - 包装システム販売事業の順調な成長 - 設備増強による生産能力の拡大	○	- 次の成長の柱とすべく、ラベル・包装システム販売事業はさらなる拡大が必要 - 多様化、流動化する市場ニーズへの迅速な対応
付加価値最大化	- 品質体制の強化（クレーム30%減） - 富山第二・第三・南工場の工場再編完了（製造エリア見直しで生産性UP） - IoTを活用し設備稼働状況の見える化を実現 - 少人化機械の導入	△	- 少人化機械導入後の本格稼働と水平展開 - 工場再編の次のステップとして東工場、そしてその先の富山工場の工場再編を検討 - 生産のさらなる効率化
ワークエンゲージメント	- 総合職の領域拡大によるキャリアアップ環境を整備 - 働きやすい環境の整備（時短勤務の取得期間延長など） - 社内表彰制度の見直し・新設 - 人材育成の強化	△	- エンゲージメントサーベイの数値改善 - 多様なキャリア選択が可能な環境の整備 - 多様性の推進
海外事業推進	- Kinta社のM&A実施 - シンニッポン社における新工場建設開始 - グループ会社間の連携強化によるグローバルメーカーとの取引拡大	◎	- 海外新規顧客の開拓 - シンニッポン社、Kinta社との連携強化 - グローバル人材の育成強化
経営資源活用	- サステナビリティ対応の強化（専任部署の設置、CO₂の算定システム導入と削減） - グループとしての人材育成、人材交流に向けた制度構築 - IT基盤の強化	△	- SBT（Science Based Target）認定取得に向けた取り組み - グループとしての戦略方針の明確化 - 資産の有効活用

AX2024の完遂と次期中期経営計画の土台作りを推進する1年に

AX2024 + 1

中期経営計画期間を1年延長

5つの戦略の推進を通じて
明らかになった
AX2024の未達成施策を完了

原材料価格の高騰をはじめとする
事業環境の急激な変化に対応し
収益体制の再構築を推進

目次

- 1 — 2025年3月期 決算
- 2 — 中期経営計画「AX2024」の振り返り
- 3 — 2026年3月期 業績予想と重点戦略**
- 4 — 企業価値の向上に向けて
- 5 — 会社概要

収益性の改善により増収・増益を計画

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比	前期差
売上高	43,945	45,000	+2.4%	+1,054
営業利益	2,076	2,250	+8.4%	+173
経常利益	2,165	2,260	+4.4%	+94
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,704	1,800	+5.6%	+95
1株当たり 当期純利益 (円)	80.23	84.71	+5.6%	+4.48

- 包装システム販売事業及びラベル事業の売上増加
- 生産の効率化により売上原価低減

収益体制の再構築に向けて事業と組織の整備を推進

①収益構造改革

事業ポートフォリオの再構築

- 包装システム販売事業の拡大
- ラベル事業の拡大
- 海外事業の拡大

印刷包材事業の構造改革

- 生産性の向上
- 棚卸資産の最適化
- 価格の適正化

②環境課題への対応

地球環境への対応により 持続可能な成長を実現

- SBT認定の取得を推進
- アサヒスマートカラー※の拡販
- 環境に配慮した素材・原料を使用した新製品の開発
- プラスチック使用量の削減

③体制の整備

事業改革を可能とする組織への転換

- 組織構造の最適化とコミュニケーションの促進
- 新たな挑戦を促進する、チャレンジ文化の醸成

事業構造の改革と成長分野への集中により収益性向上を目指す

■ 事業ポートフォリオの再構築

成長ドライバー領域へ経営資源を配分

包装システム販売事業の拡大

背景

省人化ニーズの
さらなる高まりが見込まれる



- 朝日オリジナルの半自動機械の展開
- 今後、省人化が進む領域・ニーズの把握と販売促進
- 事業の効率化を可能とする支援システム

ラベル事業の拡大

背景

他事業と比較しシェアが低く、
拡大の余地が大きい



- 高機能ラベルの開発・導入と生産基盤の構築
 - ・RFIDラベル
 - ・極低温ラベル
 - ・偽造防止ラベル など
- デジタル印刷のニーズ発掘と販売促進

海外事業の加速・拡大

背景

ASEAN地域の経済成長や
さらなるシナジーの創出など、
拡大の余地が大きい



- 新工場建設プロジェクトの遂行（26年度稼働予定）
→2032年度売上75%UP（24年度比）
- グループ連携した営業提案活動によるシナジーの創出
- グローバルリーダーの育成

■ 印刷包材事業の構造改革

印刷包材事業における、収益性、効率性の改善へ

生産性向上

さらなる省力化・少人化機械の導入

棚卸資産の最適化

生産統制の強化による、リードタイムの短縮

価格の適正化

新たな原価管理システムの導入による
原価管理の強化

目次

- 1 — 2025年3月期 決算
- 2 — 中期経営計画「AX2024」の振り返り
- 3 — 2026年3月期 業績予想と重点戦略
- 4 — 企業価値の向上に向けて
- 5 — 会社概要

PBR、PERともに低い水準にあると認識

- 当社のPBRは年々低下し、2019年3月期以降、**1倍割れを継続**
- PBRの構成要素であるPERも低下しており、**当社の成長に対する期待度が低い状態**であると推察

PBR
(株価純資産倍率)

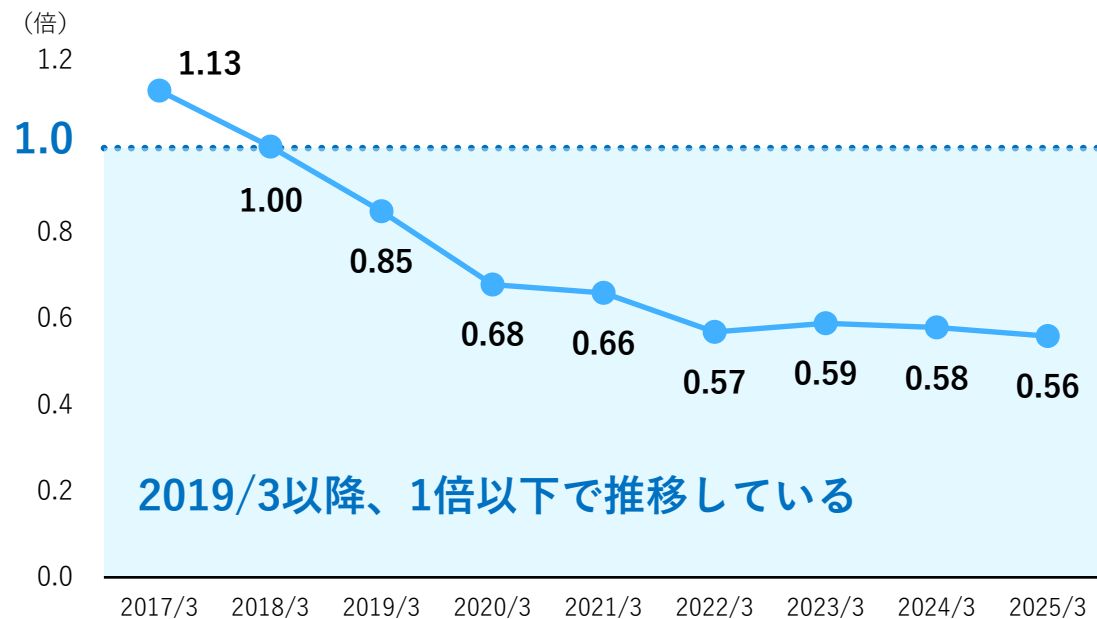
=

PER
(株価収益率)

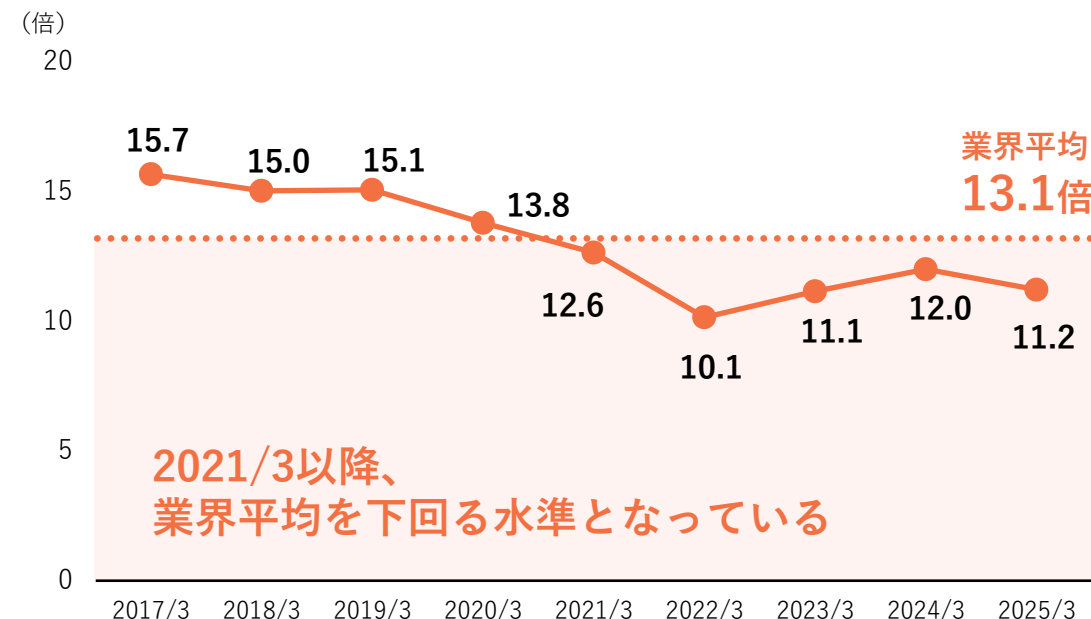
×

ROE
(自己資本利益率)

PBRの推移

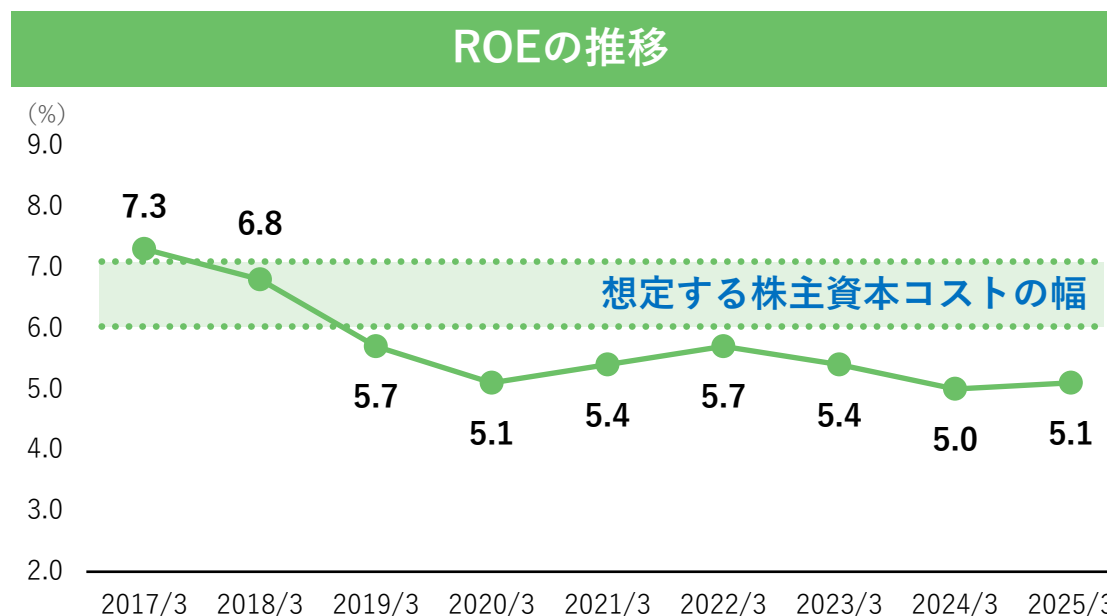


PERの推移



現状のROEは株主資本コストを下回っている

- CAPMと株式益利回りに基づき、当社の株主資本コストは6～7%と算出
- 2019年3月期以降、ROEが株主資本コストを下回る水準で推移（PBRが1倍割れとなった時期と一致）



株式益利回り（PERの逆数）

10%程度

6～7%程度が
妥当な水準と判断

CAPM（資本資産価格モデル）

4～5%程度

継続した増収傾向の中で、利益成長の停滞による利益率の低下と総資産の増加による回転率の低下がROEを押し下げる要因であると推察（財務レバレッジは2倍前後で安定的に推移し、適正な自己資本水準を維持）

ROEの向上に向けて
収益性とバランスシート双方の改善が必要

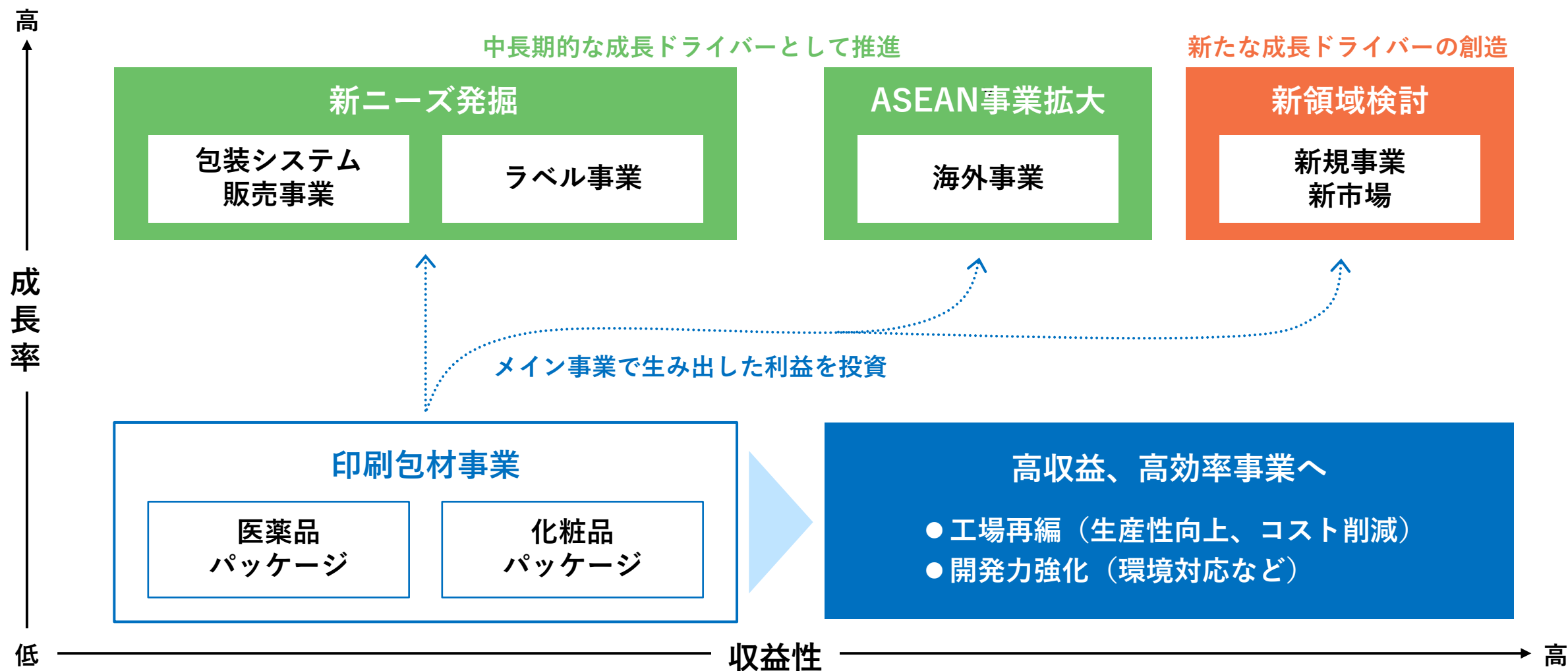
PBR向上＝企業価値の向上



構成要素	目指す方向性	具体的な取り組み方針	現在の主な取り組み
ROE向上	収益力の強化	● 印刷包材事業の構造改革 工場再編の推進、生産性向上 ● 高付加価値製品の拡充 開発力強化、アサヒスマートカラー推進 ● ラベル事業の拡大 RFIDラベル、機能性ラベルの拡充 ● 包装システム販売事業の拡大 エンジニアリング機能の強化 ● 海外事業の拡大 新工場（i-Tech Valley）の建設 + α 新規事業、新市場進出の検討	
	財務・資本政策の強化	● 政策保有株式の縮減 縮減方針※に沿った推進 ● CCCの向上 棚卸資産の適正化推進 ● 株主還元の拡充 幅広い還元方法の検討 ● グループ全体の キャッシュマネジメントの確立	
PER向上	成長期待の醸成 (株主資本コストの低減)	● IR活動の強化 発信力の拡充（投資家向け説明会、会社HP刷新） ● 人的資本経営の推進 人材育成の強化、働き方の見直し	

※ 2024年11月11日付当社プレスリリース
「政策保有株式の縮減に関するお知らせ」

メイン事業の収益性向上と成長ドライバーへの投資・育成を推進



配当方針

- 安定的な配当の継続と業績に応じた成果の配分
- 連結配当性向「40%」以上の配当を実施
 - ・ 持続的な成長に向けた省力化・少人化への投資
 - ・ 包装システム販売事業、ラベル事業、海外事業への成長投資
 - ・ 財務健全性の確保
 - ・ 株主還元の充実

■ 連結配当性向 40%以上

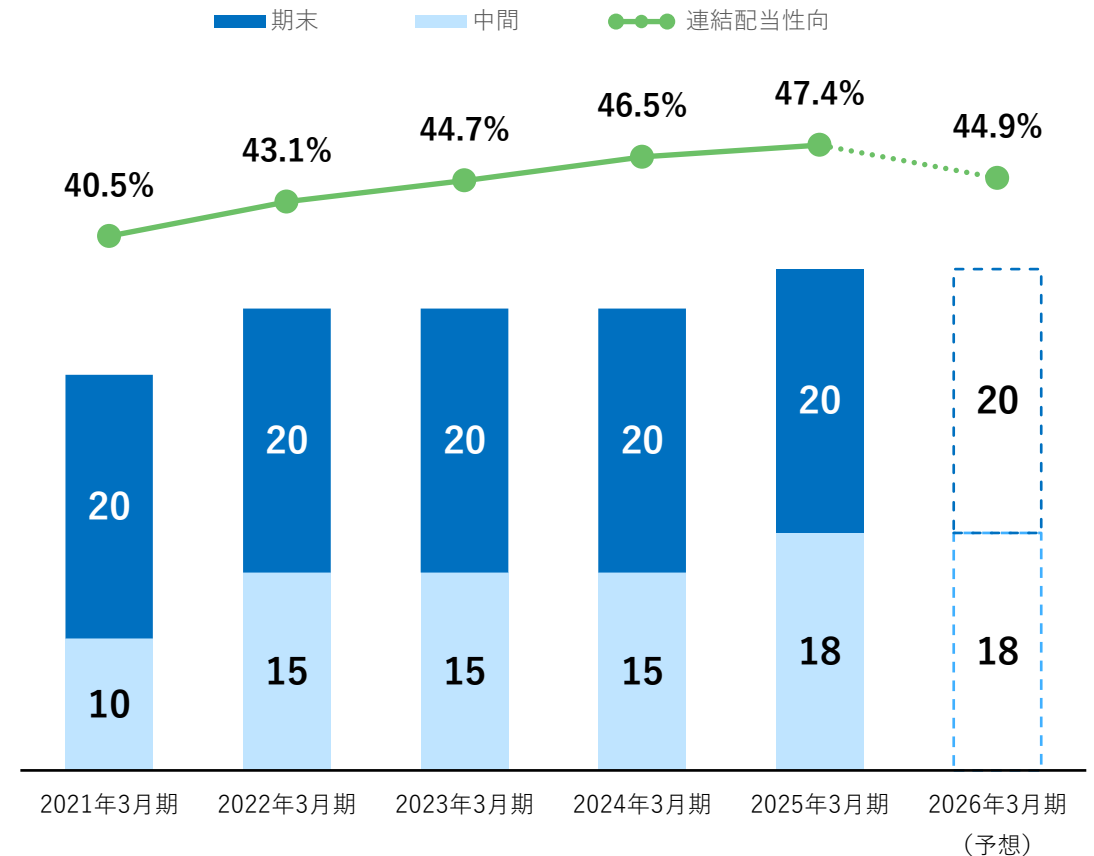
2024年3月期 46.5% / 2025年3月期 47.4%

■ 2025年3月期 総還元性向 53.0%

■ 2026年3月期 配当金

1株当たり年間 38円（予定）

1株当たりの配当金額推移（円、%）



2025年度～2026年度の2年間で

約 **10** 億円

の自己株式取得を計画

自己株式取得方針の概要

当社は、成長投資による事業拡大と株主還元の両立を重視しています。こうした方針のもと、現在の当社株価は割安であると認識しており、下記の通り自己株式の取得を計画しております。

- 取得期間：2025年8月～2027年3月（仮）
- 取得価格の総額：10億円程度
- 取得し得る株式の総数：120万株程度
（自己株式を除く発行済株式総数に対する割合5%程度）

※ 具体的な取得価額の総額、取得期間、取得方法等については、別途取締役会にて決定いたします。

配当政策とあわせ、2026年3月期の総還元性向は70%程度を見込む

※ 今後、本件に関して開示すべき事項が発生した場合には、速やかに公表いたします。



朝日印刷株式会社

ASAHI PRINTING CO.,LTD.

目次

- 1 — 2025年3月期 決算
- 2 — 中期経営計画「AX2024」の振り返り
- 3 — 2026年3月期 業績予想と重点戦略
- 4 — 企業価値の向上に向けて
- 5 — 会社概要

商 号	朝日印刷株式会社
所 在 地	富山県富山市
創 業	1872年（明治5年）
設 立	1946年5月（昭和21年）
上場市場	東証スタンダード（証券コード：3951）
資 本 金	2,228百万円
従業員数	1,850名（2025年3月現在）



朝日印刷グループの経営理念

**お客様本位を基本とし、
企業の永続成長と従業員の幸福とが一致する経営を目指します。**

朝日印刷グループの使命と目指す姿

Mission

包むところを大切にし、安心・安全と美を追求した商品・サービスを提供することで社会に貢献します。

Vision

包装の価値創出企業として、日本と世界へ新しい包装文化を発信します。
朝日印刷グループで働く世界中のだれもの子供や孫の世代が「入社したい」と思うような会社を目指します。

Value

私達は12の行動指針の元に、社会・お客様へ対して価値創出とミッションを果たします。

印刷包材事業を中心に3つの事業を展開

印刷包材事業

当社グループの主力事業
医薬品市場、化粧品市場向け製品の
製造・販売など

【医薬品パッケージ】

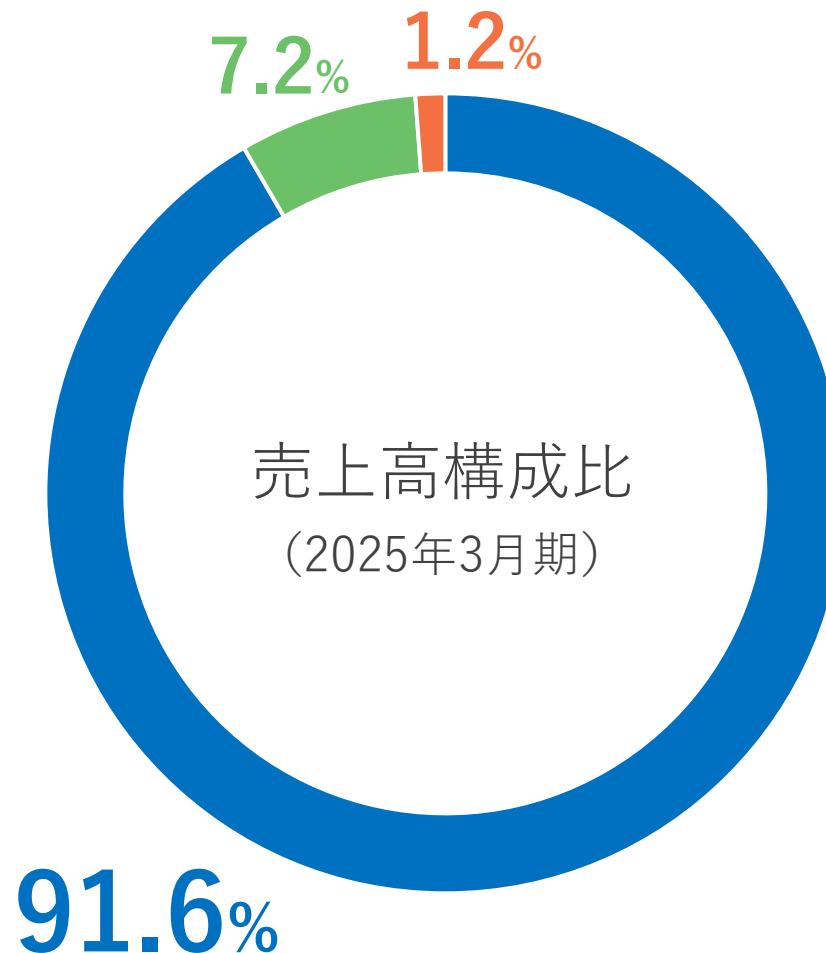


一般用医薬品



医療用医薬品

【化粧品パッケージ】



包材システム販売事業

包装設備の販売事業
包装の前後工程の機械を含む
トータルな提案での販売

【導入実績】



CAP HOLDING TRAY

人材派遣事業

地元企業への職業紹介・労働派遣事業

Asahi Jinzai Service

▶グループ会社 朝日人材サービス株式会社

医薬品包材・化粧品包材は新規参入が難しい領域

医薬品包材

医薬品の一部として人命に関わる

■法律等の厳しい規制

- 薬機法やGMP省令に準拠した製造
- 徹底した品質管理体制と品質保証体制

■安定供給体制の構築

- 医薬品の供給をストップさせない体制



化粧品包材

高加飾で意匠性の高い包装物

- 高度な印刷・加工技術
- 色の再現性、正確性



同業他社には無い国内生産網を構築

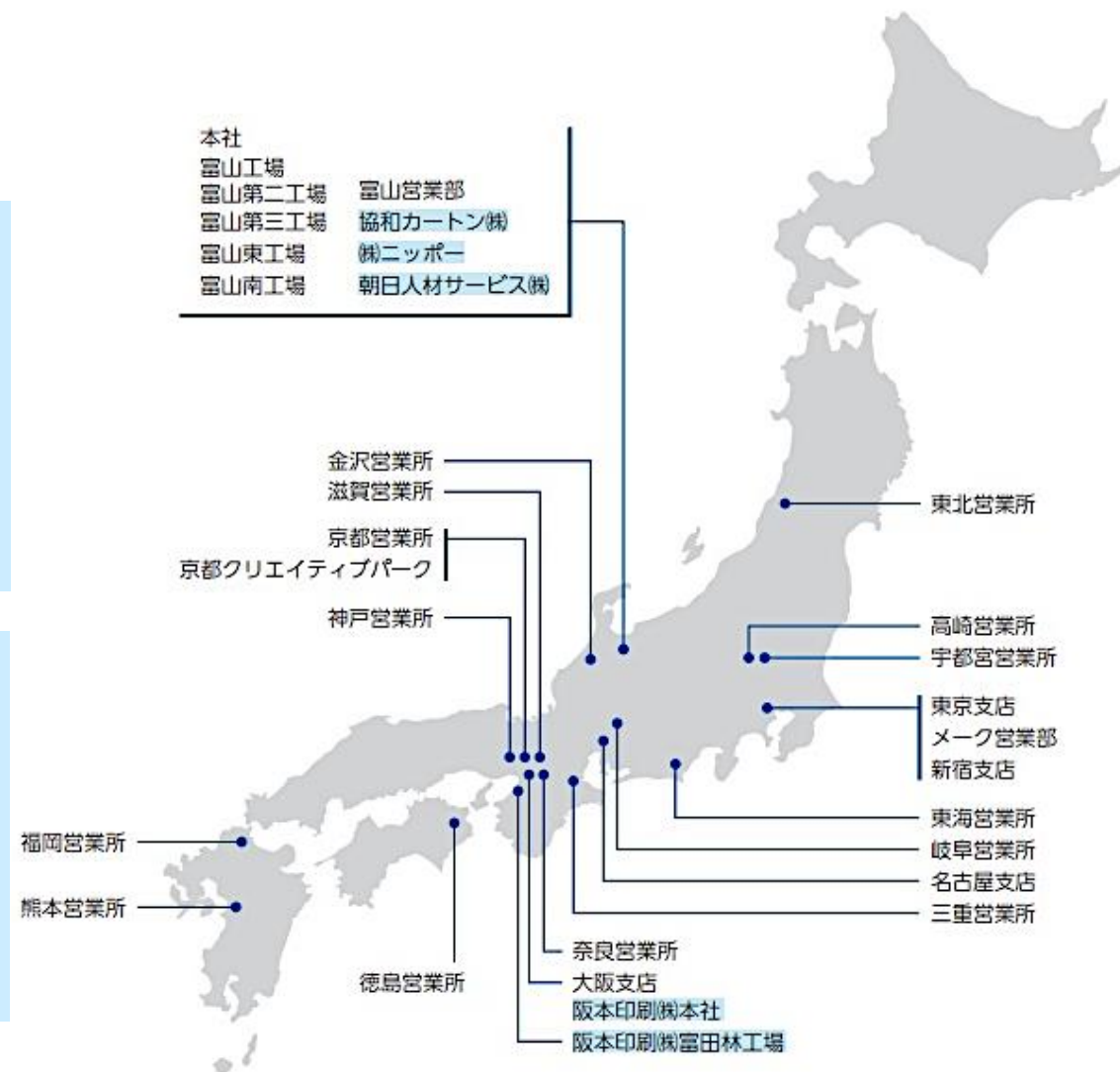
- **製造拠点の分散**により安定供給が可能
- グループ会社の製造拠点も活かした
業界トップの製造キャパシティ
- お客様に寄り添った営業活動や
迅速な対応が可能な**営業・販売体制**

国内販売拠点

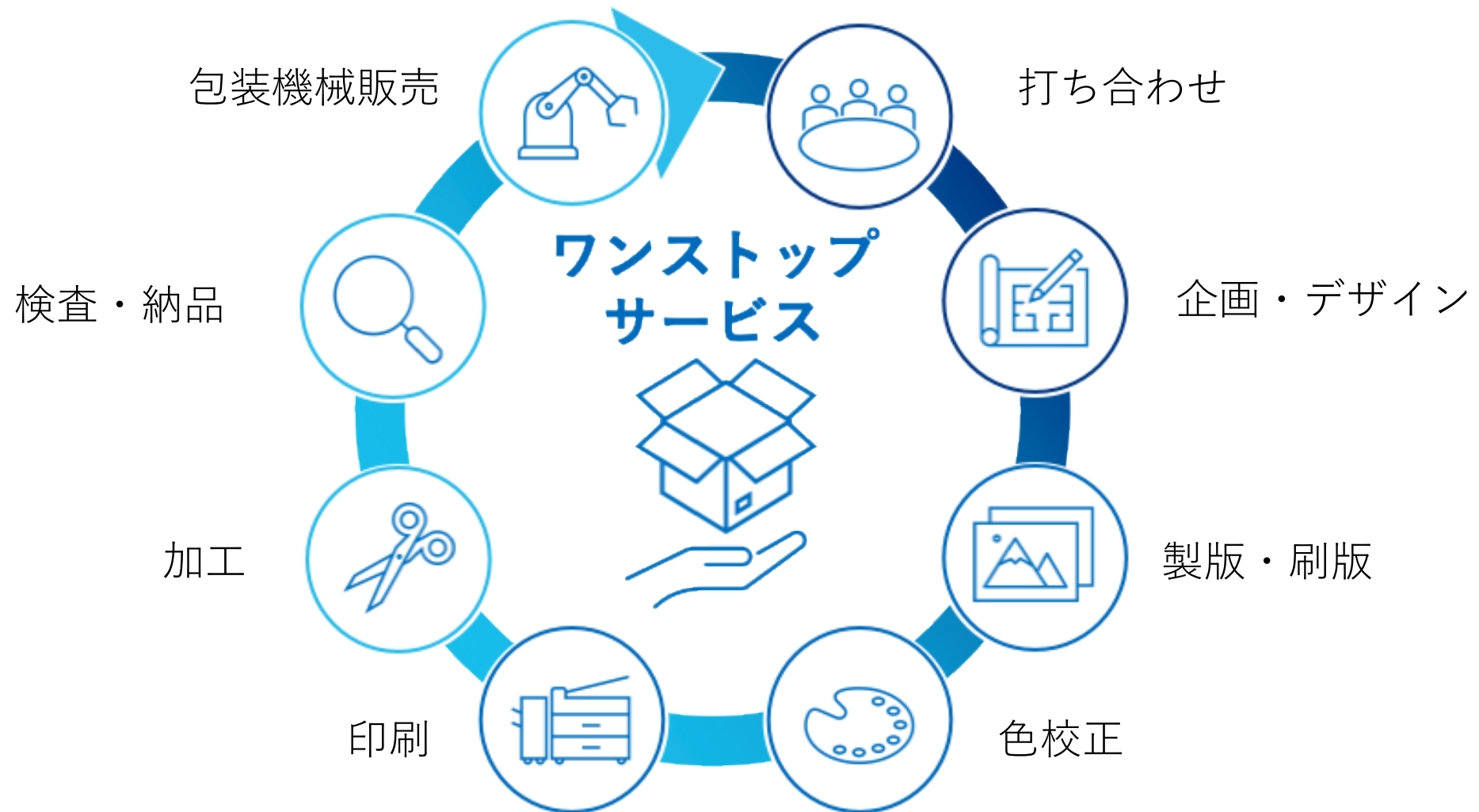
20 拠点

国内製造拠点

5 拠点



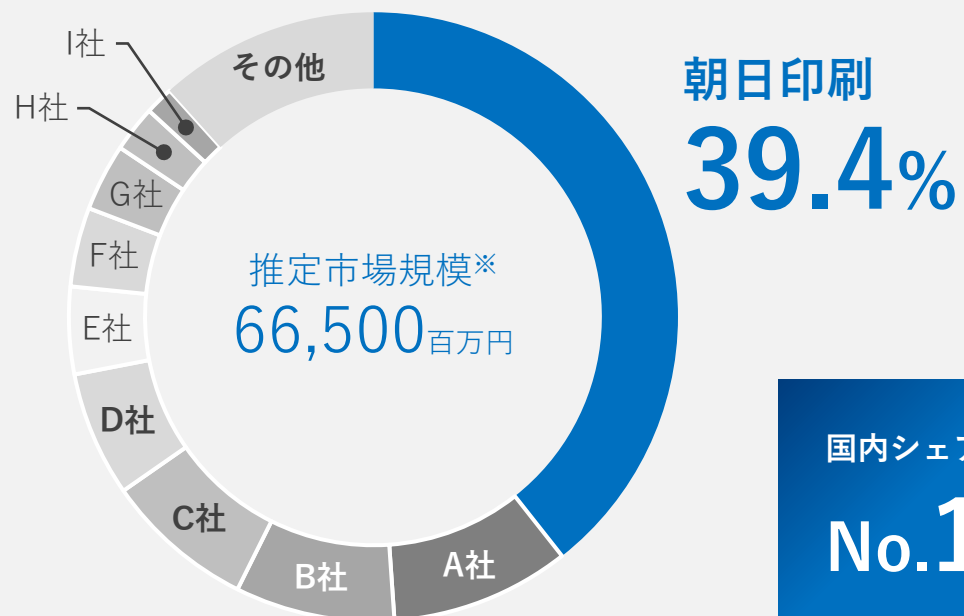
設計・デザインから製造・包装までを自社グループで提供



医薬品と化粧品の市場で国内トップシェアを誇る

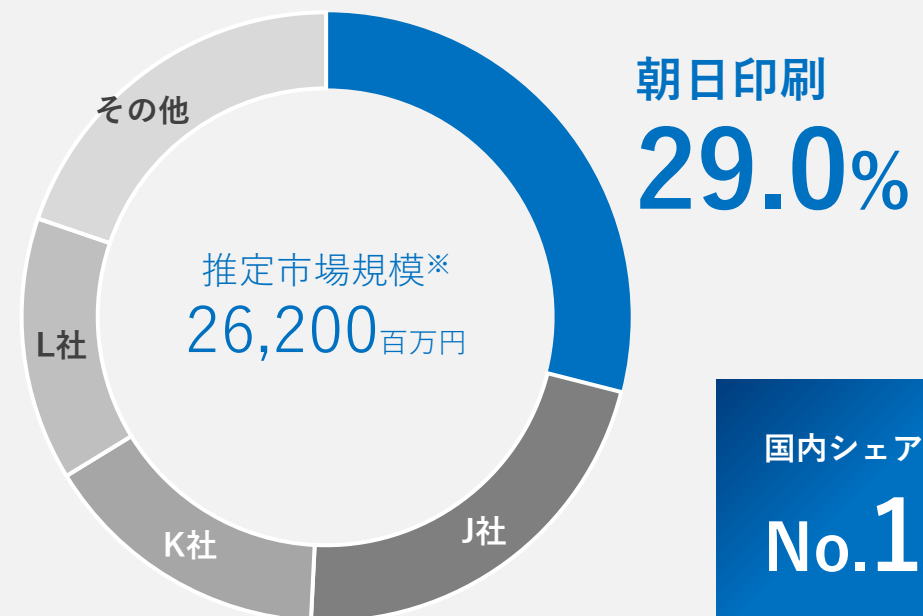
- 偏りのない数多くの得意先との取引（トップの得意先で売上の4%程度）
- 全国20拠点の販売網による地域密着型の提案型営業

医薬品市場 向け印刷包材



※（出典）株式会社矢野経済研究所

化粧品市場 向け印刷包材



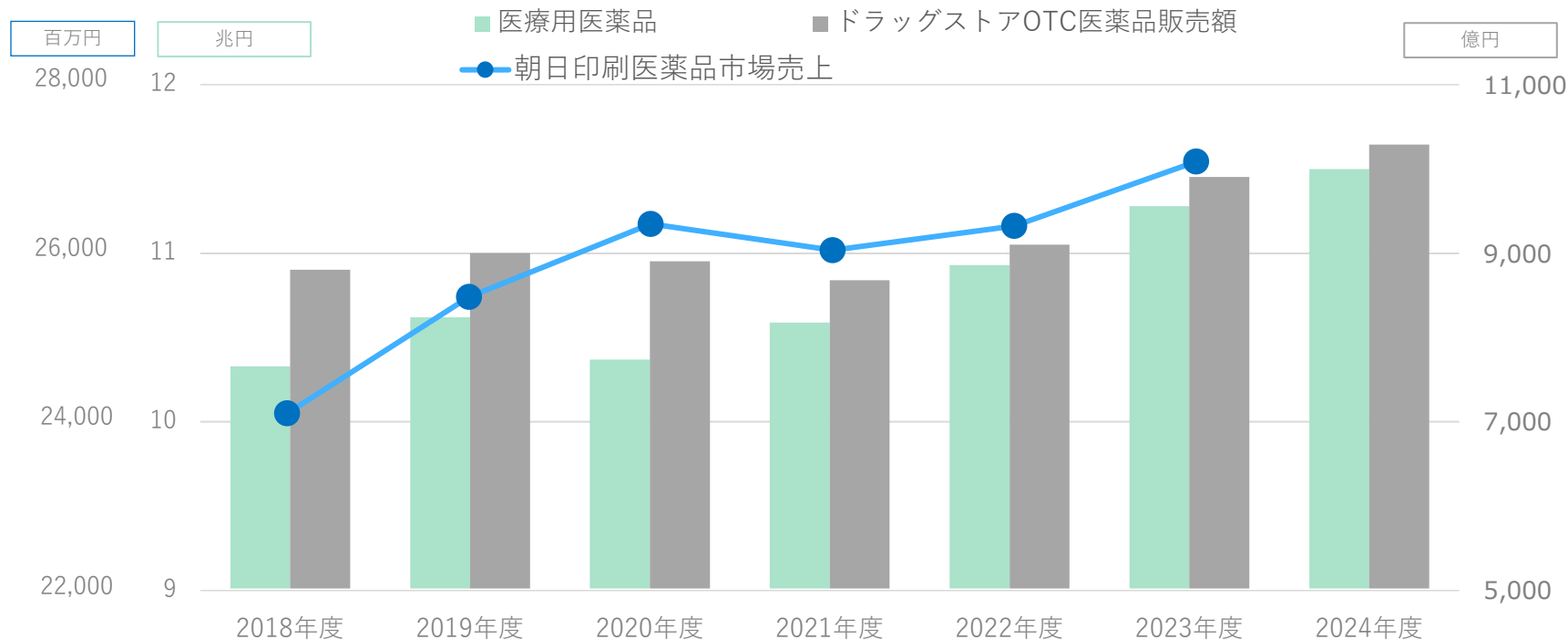
※（出典）株式会社矢野経済研究所

医療用医薬品・OTC医薬品ともに好調な推移を予想

当社予測

医薬品使用量は、感染症の影響を受けたものの、高齢人口増加、GE普及促進、薬の品目増加により、当面の間**安定的に推移**すると見込む。

国内医薬品市場と当社医薬品市場売上高の推移



医療用医薬品 Copyright © 2022 IQVIA. All rights reserved.
OTC医薬品 Copyright © 経済産業省

市場環境（医療用医薬品）

- 医療用医薬品の国内市場は11兆円を突破。高齢化の進展、感染症対応関連製品含め堅調に推移している
- ジェネリック医薬品の市場規模は2023年には2018年対比で30%拡大。バイオシミラーやオーソライズドGEの品目数は倍増

市場環境（OTC医薬品）

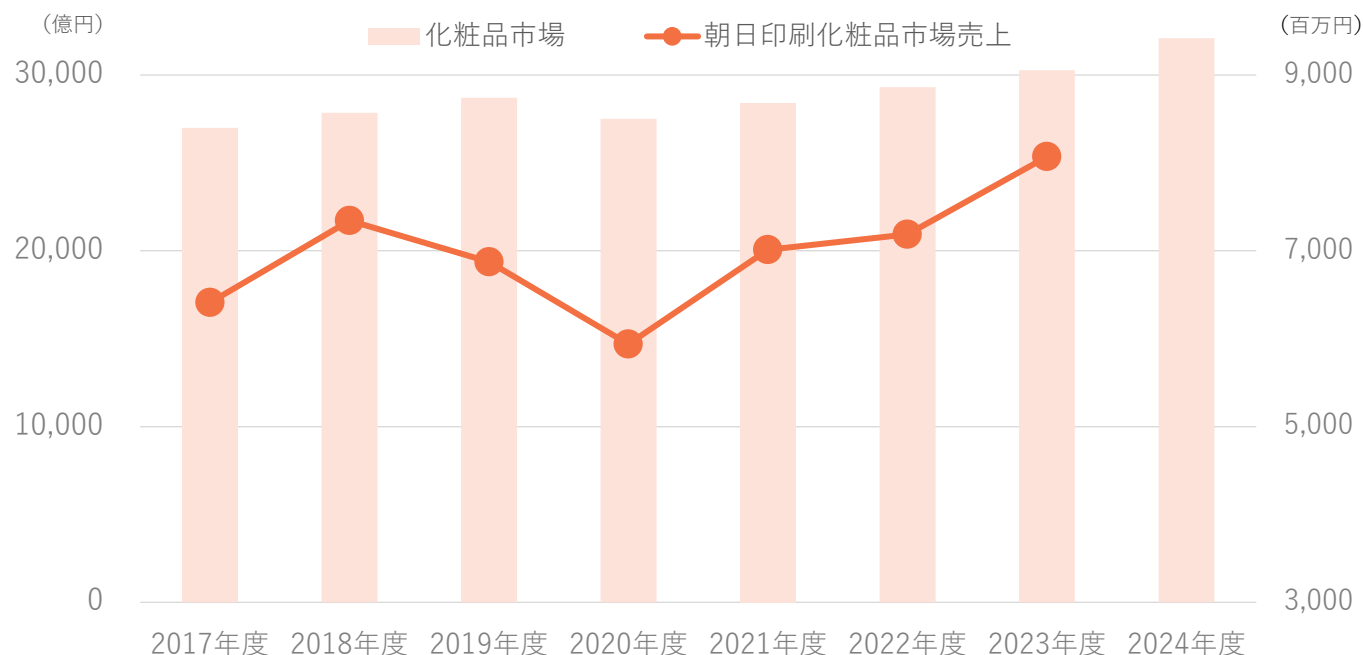
- 感染症対策の見直し、行動制限の解除により、落ち込んでいた胃腸薬・ドリンク類が回復
- スイッチOTC増加に向け、薬局・ドラッグストアでの体制整備やセルフメディケーションの広がりがカギに

新型コロナウイルスによる需要減少も回復傾向、今後も拡大の予想

当社予測

5類感染症への移行に伴うメーキャップ品の需要回復、高齢化に伴うエイジングケア製品の需要増加、若い世代での男性用コスメの市場拡大、越境ECの拡充など、直近での市場環境は安定的に推移し今後も拡大する見込み。

国内化粧品市場と当社化粧品市場売上の推移



Copyright ©富士経済グループ 国内化粧品市場調査

市場環境

- 行動制限解除による需要の高まり
- メンズコスメ市場の拡大
- 環境配慮機運の一層の高まり
- 化粧品メーカー越境EC対応拡充
- エイジングケア需要の増加

ご清聴ありがとうございました！

＜お問い合わせ先＞ 朝日印刷株式会社
経営管理部コーポレート課

TEL： 076-491-6137
MAIL： home@asahi-pp.co.jp
HP URL： <https://www.asahi-pp.co.jp/>

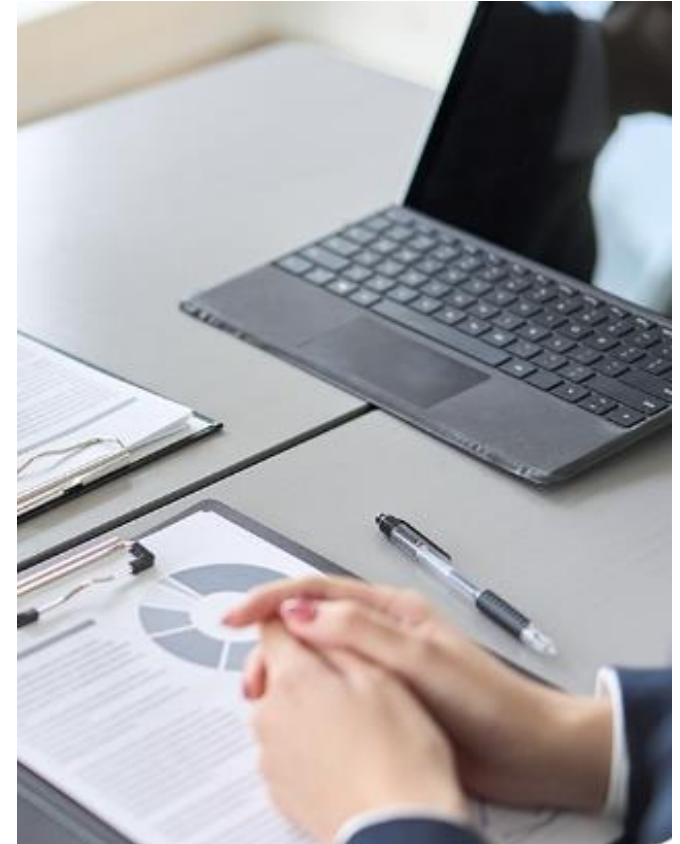
- この配布資料に記載されている業績予想および見通しは、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境等の不確実な要因の影響を受けます。
従って、実際の業績は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
- 投資者一般への情報伝達を目的としており、当社の株式その他有価証券等の売買等を勧誘または推奨するものではありません。

もっと知ってほしい！



朝日印刷

WEBムービー▶



地域未来牽引企業

